

第3回東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU)
東京工業大学地球生命研究所 (ELSI)
合同一般講演会

2018. **1.21** Sun

13:00-16:40

東工大蔵前会館 くらまえホール

東京都目黒区大岡山2-12-1

起源への問い

宇宙・地球・生命：その起りはどのようなものでしたか。私たちは歴史のなかで、たえずこの問いに向き合ってきました。本講演会では宇宙・地球・生命の起源について、現在どこまで解き明かされているかその最先端のサイエンスをわかりやすくお話しすると共に、起源を問うとはどういうことなのかという起源的な話題について、サイエンティストと芸術学の専門家が対話します。

参加費
無料

プログラム

宇宙の始まりに迫る

杉山直 名古屋大学大学院理学研究科・研究科長・教授
東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構・主任研究員

地球外生命～地球中心主義からの解放～系外惑星、氷衛星～

井田茂 東京工業大学地球生命研究所・副所長・教授

かたちが生まれるとき～芸術学から考えるリズムと身体～

伊藤亜紗 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院・准教授

鼎談

起源を問うとはどういうことか

対象：高校生以上

定員：300名(事前申込・抽選制)

申込方法：goo.gl/CXjNeX

申込締切：2018年1月18日 抽選結果は1月19日にお知らせします。

主催：東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU)

東京工業大学地球生命研究所 (ELSI)

問い合わせ先：pr@elsi.jp



講演1 13:10~13:50

宇宙の始まりに迫る

杉山 直

名古屋大学大学院理学研究科・研究科長・教授
東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構・主任研究員



早稲田大学理工学部卒業、広島大学大学院理学研究科修士・理学博士。東京大学助手、京都大学助教授、国立天文台教授を経て、2006年より現職。著書に「宇宙その始まりから終わりへ」(朝日選書)、「膨張宇宙とビッグバンの物理」(岩波講座)、「相対性理論」(講談社)など。

現在の宇宙は、惑星、星、銀河、そして銀河の集団である銀河団や大規模構造など豊富な構造に彩られています。しかし、宇宙の始まりは、それとは全く異なった、とても熱く密度の高い、ビッグバンと呼ばれる状態でした。ビッグバンからどのように構造が生まれてきたのでしょうか。遠方の宇宙を観測すると、過去の宇宙、つまり生まれて間もない宇宙を直接見ることが可能となります。観測と理論の両輪によって、ビッグバンからどのように構造が生まれてきたのかが、明らかになってきました。さらに理論研究によって、ビッグバンの始まりでは何が起きていたのかさ説明かされようとしています。本講演では、宇宙の始まりから現在に至る138億年の歴史を解説します。

講演2 13:55~14:35

地球外生命~地球中心主義からの解放~系外惑星、氷衛星~

井田 茂

東京工業大学地球生命研究所・副所長・教授



東京生まれ。京都大学理学部物理学系卒。東京大学大学院地球物理学専攻修了。東京大学教養部宇宙地球科学教室助手を経て93年、東京工業大学地球惑星科学科助教授に就任。現在は、東京工業大学地球生命研究所教授。著書に『地球外生命体』(マイナビ新書)『系外惑星と太陽系』(岩波新書)『地球外生命』(共著;岩波新書)『系外惑星-宇宙と生命のナゾを解く』(ちくま書房)など多数。

2017年2月にNASAが大々的に「太陽系外の惑星に関する重大発表」の予告をし、その2ヶ月後には「地球外生命に関わる重大発表」の予告をしました。「ついに宇宙人を発見か?」とネットでは話題になりました。しかし、発表内容を聞いた人々の多くは、肩透かし感を抱いたのではないかと思います。一般の人々がそう思ったのは当然のことです。

地球外生命体に関する科学的議論は20世紀のほぼ100年にわたってタブーとして封印されていました。しかし、100年の間に科学は発展しており、さらに地球外生命の議論は20世紀末に封印が解かれ、21世紀に入ると猛烈な展開をしてきました。もはや地球のアナロジーで考えることは時代遅れとなり、地球中心主義から解放された現代的な考えが主流となっていて、実はNASAの発表はそのラインに乗っています。科学の現場において、地球外生命の議論が今どうなっているのか、ホットな現場を紹介したいと思います。

講演3 14:55~15:35

かたちが生まれるとき~芸術学から考えるリズムと身体~

伊藤 亜紗

東京工業大学リベラルアーツ研究教育院・准教授



1979年生まれ。専門は芸術学、身体論。もともとは生物学者を目指していたが、大学三年次に文転。2010年に東京大学大学院博士課程を単位取得のうえ退学。同年、博士号を取得(文学)。著書に「ヴァレリーの芸術哲学、あるいは身体解剖」(水声社)、「目の見えない人は世界をどう見ているのか」(光文社)、「目の見えないアスリートの身体論」(潮出版)など。

混沌のなかから「かたち」が浮かび上がること——起源はしばしばそのようにとらえられてきました。このような「かたち」のうち、時間的なものが「リズム」です。リズムは、芸術作品が生まれるときや、人が身体運動を獲得するときに、重要な役割を果たします。本発表では、このリズムの力について、哲学や芸術学の観点から考えます。

たとえば、フランスの詩人ポール・ヴァレリーは、まずリズムを思いついてから、そこに言葉をあてはめるようにして詩を作ると言います。あるいは吃音でしゃべりがコントロールできない人は、歌を歌いながらだと、どもりが生まれません。このように、リズムに「ノる」とき、私たちは自分でも思いがけないような作品や、なめらかな運動を生み出します。けれども一方で、過剰なリズムは、人間の自由を「乗っ取る」という側面も持っています。「ノる/乗っ取られる」の両面から、人間とリズムの付き合い方を考えてみましょう。

鼎談 15:40~16:10

起源を問うとはどういうことか

杉山 直、井田 茂、伊藤 亜紗

起源を問うとはどういうことなのか。サイエンティストと芸術学の専門家がざっくばらんに対話します。

懇親会 16:10~16:40

講師とのティータイム



会場

東工大蔵前会館 くらまえホール

住所: 東京都目黒区大岡山2-12-1

最寄駅: 東急大井町線・目黒線「大岡山駅」下車 徒歩1分

起源への問い

宇宙・地球・生命...その起こりはどのようなものだったのでしょうか。現在どこまで解き明かされているかをわかりやすくお話するとともに、起源を問うとはどういうことなのか、サイエンティストと芸術学の専門家が対話します。